

学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

外国語科（科目名）学習指導案

〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組
令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

- 1 **単元名** 例 聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝える
題材（使用教科書名） Lesson 〇 “〇〇〇〇〇〇” pp.〇-〇

◇単元名はまとまりをもった教育内容の単位の名称であるが、実現すべき教育的意図も表すため、実現すべきねらいを考慮し、工夫する。

2 単元の目標 「内容のまとまり^{注1}：話すこと[発表]」

例 【話題】について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。

◇科目の目標を踏まえたうえで、各単元で取り扱う題材、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況等、また、取り扱う話題や支援の程度等に即して設定する。

◇生徒の立場で書く。（文末表現例：「～できる」等）

注1：「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」における「内容のまとまり」は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の五つの領域のことである。また、「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」、「論理・表現Ⅲ」における「内容のまとまり」は、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の三つの領域のことである。すべての科目において、一つの単元で、複数の内容のまとまりを取り上げることも考えられる。

3 単元の評価規準

例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> （【内容】を話して伝えるために必要となる）【言語材料】を理解している。 【話題】について【内容】を（【言語材料】等を用いて、）話して伝える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【目的等】に応じて、【話題】について、聞いたり読んだりしたことを基に、【内容】を話して伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【目的等】に応じて、【話題】について、聞いたり読んだりしたことを基に、【内容】を話して伝えようとしている。

◇単元の目標を踏まえて、評価の対象とする内容のまとまりごとの評価規準を設定する。

4 指導上の立場

○単元観

◇指導者の立場で書く。

○生徒観

○指導観

- ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」（何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか）も併せて整理する。その際、教科書教材等の分析を行い、その単元の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。
- ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する学級の課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

5 指導と評価の計画（全○時間）（○…記録に残す評価）

◇「ねらい」と「言語活動等」は、生徒の立場で書く。

次	時	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ■単元の目標を理解する。 ■【話題】に関するプレゼンテーションを視聴して、課題やその解決策について情報や考えを共有する。 ①【話題】について知っていることを、クラス全体で共有する。 ②【話題】に関するプレゼンテーションを視聴し、内容を確認するとともに、感想をペアで伝え合う。 ③グループで、インターネット等を使って【話題】について調べ、得られた情報を整理する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して学習の振り返りを適宜行わせる。【言語活動の観察】
二	1 2					
三	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ■課題を説明し、その改善のために自分ができることを、理由を含めて話して伝える。 ①【話題】の問題を解決するために自分ができる取組について考え、ペアやグループで伝え合う。 ②次の事項を含めてスピーチのアウトラインやメモを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・【話題】の問題について自分を取り上げる課題とその理由 ・改善のために自分ができる取組 				<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の評価規準に照らして観察し、本単元で学習した語句の活用、スピーチの構成、音声上の留意点、発表態度について確認し、適宜フィードバックを行う。
後日		パフォーマンステスト	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステストを行う。（詳細は後述）

ねらいに即して記録に残す評価は行わない。ただし、指導に生かすことは毎時間行う。状況を見届けて

- ◇評価の観点において、「知」は「知識・技能」、「思」は「思考・判断・表現」、「態」は「主体的に学習に取り組む態度」を示している。
- ◇記録に残す評価については、単元に応じて適切に設定し、対象とする授業の評価の観点の欄に「○」を記す。パフォーマンステストやペーパーテスト等の活用も考えられる。
- ◇「○」が記されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、よい姿を示している生徒や課題が見られる生徒の学習状況を確認することが重要である。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	指導・支援	評価規準及び評価方法
<p>1</p> <p>◇生徒の立場で書く。</p> <p>目標</p> <p>◇単元における本時の位置づけを踏まえ、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。</p>	<p>◇指導者の立場で書く。</p>	<p>例 ～している。 【評価の観点】</p> <p>◇生徒の立場で書く。</p>
<p>2</p> <p>◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。</p> <p>◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>まとめ</p>	<p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学習を進めるための手立て ・生徒が対話的に学習を進めるための手立て ・生徒が学習を深めるための手立て ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 <p>◇学習活動と指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。</p>	<p>◇単元を通して資質・能力を育成する力を踏まえて、本時の評価規準を具体的に表現する。</p> <p>◇評価の場面は1、2箇所に限る。</p> <p>◇評価規準に合わせて、評価の観点を明記する。</p> <p>◇評価方法を具体的に書く。</p>
<p>5</p>	<p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。</p> <p>◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。</p>	<p>◇評価方法の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の内容 ・言語活動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート等、必要な準備物を書く。